



平成31年産（30年播種）



麦類の生育概況 vol.1

埼玉県マスコット
「コバトン」

（平成30年12月6日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：11月の平均気温はかなり高く、降水量は少なく、日照時間は平年並みであった。
- ◎生育状況：播種作業は概ね平年並みに実施されている。適期に播種が行われたほ場では、例年よりも生育が早くかつ生育量も大きい状況である。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・播種作業：適期を過ぎたため、播種量を1～2割増やし苗立ち数を確保する。
 - ・排水対策：明きよの掘削が未実施のほ場は必ず実施し、排水路と連結させる。
 - ・雑草防除：播種後土壌処理剤が散布できなかったほ場では、雑草の種類と葉齢を確認し、適期に茎葉兼土壌処理剤を散布する。
 - ・病害防除：前年コムギなまぐさ黒穂病の発生したほ場では種子消毒を必ず行う。
 - ・麦踏み：麦が2葉期を過ぎたら、ほ場の土壌水分状態に注意して実施する。

1 気象の概況

11月の平均気温は、第5半旬を除き平年より高く、月平均では2.1℃高かった。降水量は、第2半旬にややまとまった降雨があったが、それ以外はほぼ降雨がなく、月合計では平年比43%であった。日照時間は、第2半旬でかなり少なくなったが他の半旬では平年並から多く、月合計では平年比101%であった。

2 生育の概況

（1）所内生育相

ア 小麦（さとのそら）

播種時、碎土は良好であった。播種後は高温で推移したため、出芽まで日数は9日で平年よりも3日早まった。

苗立率は平年並みであった。種子千粒重が平年より軽く、面積当たりの播種粒数が多くなったため、苗立数は平年比113%と多くなった。

イ 大麦（彩の星）

播種時、碎土は良好であった。播種後は高温で推移したため、出芽まで日数は9日で平年よりも2日早まった。

苗立率はほぼ平年並みであった。種子千粒重が平年よりやや軽く、面積当たりの播種粒数が多くなったため、苗立数は平年比102%とわずかに多くなった。

(2) 県内全般

播種作業は概ね順調に進み、大麦 85%（平年比 144%）、小麦 63%（平年比 99%）の進捗状況となっている（11月28日現在）。

小麦の進捗がやや遅れているのは一部地域で、前作の水稲、大豆、そば等の収穫作業の遅延や暖冬予報を考慮した作業実施により、播種適期の後半からやや適期を過ぎた時期が播種作業のピークとなっているためである。

適期に播種が行われたほ場では、出芽も概ね順調であり、気温が高く推移したことにより葉位の進展は早く、すでに分けつが確認されるなど生育量も大きい。播種量が多く、播種深度が深いほ場では例年にないほど草丈が高い状況となっている。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が12月6日に発表した1か月予報では、向こう1か月は平年に比べ晴れの日が少なく、平均気温は高い確率40%、降水量は平年並みまたは多い確率ともに40%、日照時間は平年並みまたは少ない確率ともに40%である。

また、11月21日発表の3か月予報では、1月、2月とも天候は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並みまたは高い確率ともに40%、降水量は多い確率が40%となっている。

(2) 生育予測

小麦、二条大麦とも適期に播種が行われたほ場では、初期生育はさらに促進されるものと思われる。このため、暖冬傾向が継続した場合、過剰生育による生育後半の凋落が懸念される。

また、晩播ほ場も昨年度のような極端な出芽の遅延や生育停滞は発生しないと予測される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 播種作業

12月播きの場合は、苗立数（100～150本/m²）を確保するため、碎土率を高め、播種量を1～2割程度増やす。ほ場が乾燥している場合は、播種後に鎮圧を行うことで均一な出芽を促す。なお、遅播きの麦は葉枚数が減少し、節間が伸びて倒伏しやすくなるため、施肥量はやや控える。

(2) 排水対策

降水量が多い予報であり、暖冬年ほどまとまった降雨や降雪が多いため、まだ明きょの設置を行っていないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、播種作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があればすみやかに補修する。

(3) 雑草防除

播種後土壌処理剤を散布できなかつたほ場や、麦の出芽や雑草の発生が始まつたほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に茎葉兼土壌処理剤を散布する。

(4) 病害防除

固定の水田転換畑や畑で小麦を連作している場合、コムギなまぐさ黒穂病の発生が懸念され、晩播によりそのリスクが拡大する。前年発生ほ場及びその周辺では種子消毒を必ず実施する。

(5) 麦踏み

麦の3葉目が見える状態となれば、軽めのローラーを使用し、ゆっくりとした速度で第1回目の作業を実施する。ただし、ほ場が湿潤な状況で実施すると土壌が締まり湿害を助長するため、天候や土壌の水分状態に注意して実施する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 11月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	14.8	13.7	20.5	18.8	9.8	9.3	0.5	11.0	33.9	27.4
2	16.8	12.8	20.2	18.0	13.8	8.4	24.0	9.6	11.7	27.1
3	13.9	11.8	18.5	16.9	9.5	7.2	0.5	8.5	30.0	27.7
4	12.8	10.6	17.7	15.8	8.6	6.0	0.0	7.9	28.5	28.6
5	9.6	9.6	14.7	14.9	5.3	4.9	0.0	8.6	33.6	29.7
6	12.0	8.9	18.0	14.2	6.5	4.2	0.5	9.5	33.5	30.3
平均	13.3	11.2	18.3	16.4	8.9	6.7	合計 25.5	59.0	171.2	169.9

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

2 玉井試験場試験ほ場の耕種概要

品種名	播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
		基肥	追肥
さとのそら	6.0	6	4
彩の星	6.0	7	2

注1. 播種様式:シーダーテープによる条播(条間30cm)

3 出芽状況

品 種 名	播種期		出芽期		苗立数		苗立率	
	本年	平年	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
	(月日)	(月日)	(月日)		(本/m ²)	(%)	(%)	(%)
さとのそら	11月12日	11月10日	11月21日	-1	147	113	92	1
彩の星	11月12日	11月10日	11月21日	0	122	102	94	-1

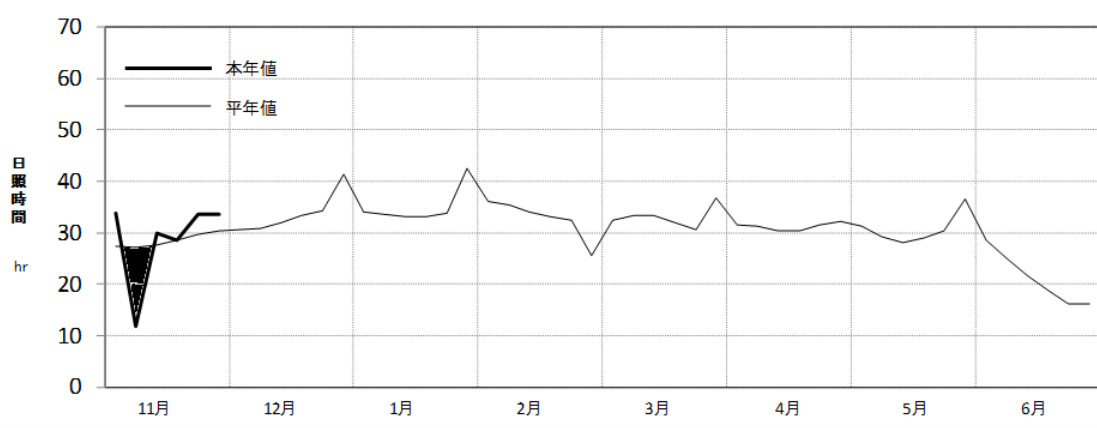
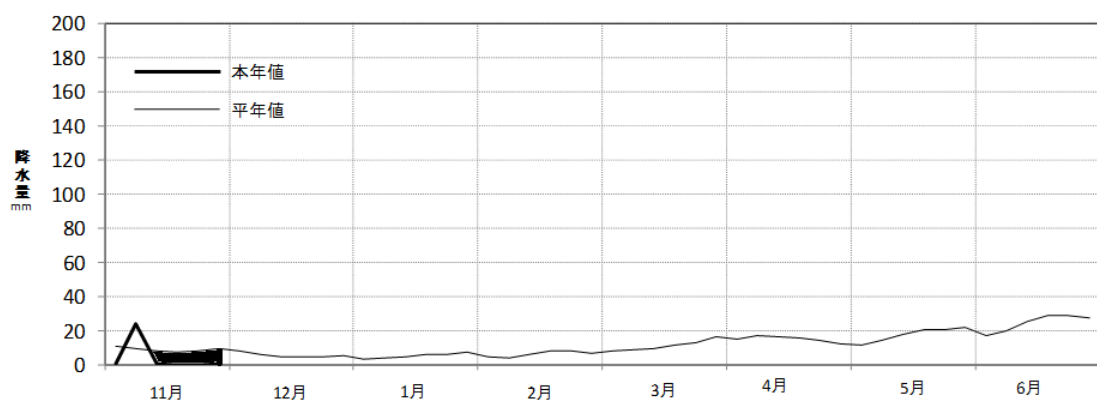
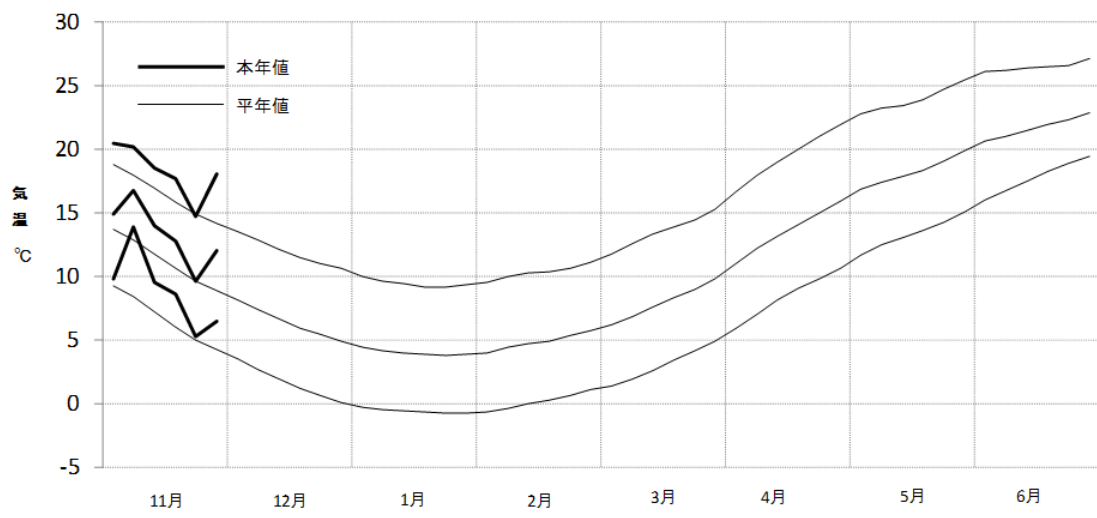
注1.さとのそら平年値は、過去5年間の平均値。

彩の星平年値は過去7年間の平均値。以下同様。

4 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
		(cm)	(%)	(本/株)	(%)	(L)	(L)	(g/100本)	(%)	(%)	(%)
さとのそら	11月30日	9.8	89	1.0	100	1.9	0.2	2.0	97	19.4	3.9
彩の星	11月30日	9.5	86	1.0	90	1.6	-0.1	3.0	97	16.3	4.2

注1.風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。



平成30年冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)